

子宮頸がん予防ワクチン（HPVワクチン）接種説明文

「小学校6年～高校1年相当の女の子と保護者の方へ大切なお知らせ」も併せてご覧ください。

事前に、この説明文やリーフレット等をよく読んで、理解し、疑問などがあれば、かかりつけ医や江別市保健センターに確認し、十分納得した上で接種することを決めてください。

【保護者の同伴について】

- ・13歳以上16歳未満の方の子宮頸がん予防ワクチンの接種については、保護者がお子様への接種を希望する場合に、別紙予診票に保護者自身が署名することによって、保護者の同伴がなくても予防接種を受けさせることができます。（この場合、当日は保護者が署名した予診票を必ず持参させてください。保護者の署名がないと予防接種は受けられません。）
- ・16歳以上の方の子宮頸がん予防ワクチンの接種については、保護者の同意は必ずしも必要ありません。予防接種を受けるかどうかは本人が判断してください。（保護者自署は不要です。）

1 ヒトパピローマウイルス（HPV）と子宮頸がんについて

ヒトパピローマウイルス（HPV）は、皮膚や粘膜に感染するウイルスで、性行為を介して生殖器粘膜に侵入して感染し、女性の50%以上が生涯で一度は感染すると推定されています。HPVに感染しても、多くの場合ウイルスは自然に検出されなくなります。その一部が数年～数十年間かけて前がん病変（異形成）の状態を経て、子宮頸がん等を発症します。

2 ワクチンについて

HPVワクチンには「2価サーバリックス」・「4価ガーダシル」・「9価シルガード9」※1の3種類があります。WHO（世界保健機関）はその有効性と安全性を確認し、性交渉を経験する前の10歳代前半に接種することを推奨しています。医療機関により取り扱うワクチンが異なりますので、どのワクチンを接種するかは予約の際にご確認ください。※1 令和5年4月から定期接種に追加されました

3 9価（シルガード9）HPVワクチンの接種年齢と回数について

15歳未満で接種の場合は2回接種が可能ですが、15歳の誕生日以降接種を開始すると、3回の接種になります。なお、15歳未満に初回接種された場合は、2回目以降が15歳を過ぎても2回接種となります。

4 2価サーバリックス・4価ガーダシルワクチンと9価シルガード9との交接種について

同じ種類のHPVワクチンで接種を完了することが原則ですが、2価サーバリックス・4価ガーダシルを接種した方が、9価シルガード9により残りの接種を希望する場合、交接種における安全性と免疫原性が一定程度明らかになっていることや海外での取り扱いを踏まえ、医師と被接種者等がよく相談の上であれば、接種は可能です。

5 予防接種を受けることができない方

予防接種は体調の良いときに実施することが原則です。体調に不安がある場合はかかりつけ医に相談してください。また、以下の場合は予防接種を受けることができません。

- (1) 明らかに発熱（通常37.5℃以上の場合をいいます）している方
 - (2) 重篤な急性疾患にかかっている方
 - (3) このワクチンに含まれる成分でアナフィラキシー様症状（ショック症状、じんましん、呼吸困難など）を起こしたことがある方
 - (4) その他、医師が予防接種を行うことが不適当な状態と判断した場合
- （裏面へ続く）

6 予防接種を受ける際に、医師とよく相談しなければならない方

- (1) 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患、発育障害などの基礎疾患のある方
- (2) 過去に予防接種で、接種後2日以内に発熱・発疹・じんましん等アレルギーを思わせる異常がみられた方
- (3) 過去にけいれん（ひきつけ）を起こしたことがある方
けいれんの起こった年齢、そのとき熱があったか、熱がなかったか、その後起こっているか、
受けるワクチンの種類などで条件が異なります。必ずかかりつけ医と事前に相談してください。
- (4) 過去に免疫不全の診断がなされている方及び近親者に先天性免疫不全症の者がいる方
- (5) ワクチンにはその精製過程における培養に使う酵母の成分、金属、抗生物質、安定剤などが入っているものがあるのでこれらにアレルギーがあるといわれたことのある方
- (6) 妊娠している方または妊娠の可能性のある方

7 予防接種後の注意事項

- (1) まれに、接種直後から30分以内に失神発作を起こすことがありますので、接種後少なくとも30分間は背もたれのある椅子などに座って様子を見てください。
※注射への恐怖心をきっかけに、接種後に失神することがあります。
- (2) 接種当日は激しい運動は控えてください。また、接種部位は清潔にしてください。
- (3) HPVワクチンは筋肉注射なので、他のワクチンより痛みを生じる可能性があります。接種直後から強いしびれや痛みが現れた場合は、すぐに医師に相談してください。その他副反応や気になる症状が現れた場合もすぐに医師に相談してください。

8 予防接種の副反応について ※下記のホームページや各リーフレットもご確認ください。

予防接種により、注射部位の痛みや腫れ、赤みなどの軽い副反応がみられることがあります。また極めて稀ですが、重い副反応（重いアレルギー症状、神経系の症状）などが起こることがあります。副反応は一時的で、徐々に改善していくことが多いですが、改善しない場合や重篤な場合は、接種した医療機関の医師や周りの大人に相談してください。

9 予防接種による健康被害救済制度について

定期の予防接種によって引き起こされた副反応により、医療機関での治療が必要になったり、生活に支障が出るような障がいを残すなどの健康被害が生じた場合は、予防接種法に基づく給付を受けることができます。ただし、その健康被害が予防接種によって引き起こされたものか、別の要因（予防接種をする前あるいは後に紛れ込んだ感染症あるいは別の原因等）によるものなのかを国の審査会にて審議し、認定された場合に給付を受けることができます。

※給付申請の必要性が生じた場合は、診察した医師、江別市保健センターへご相談ください。

10 20歳になったら子宮頸がん検診を受けることが大切です

ワクチン接種を受けた場合でも、免疫が不十分である場合や、ワクチンで防げないタイプのウイルスもあります。20歳を過ぎたら2年に1回、必ず子宮頸がん検診を受けましょう。定期的に検診を受ければ、がんになる過程の異常（異形成）やごく早期のがんの段階で発見できることが多く、経過観察や負担の少ない治療で済む場合が多くなります。

↓ HPVワクチンについて詳しい情報は各ホームページをご覧ください。

厚生労働省ホームページ



江別市ホームページ



お問い合わせ先：江別市保健センター

TEL 385-5252